

日刊 一發行兼編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 警署毎日印刷所

常盤新聞

刊夕日六月七

價一部金貳圓 廣五號十二 休日曜大衆
 一ヶ月廿五圓 廣五號十二 料一號一圓 休日曜大衆
 半年一圓二角 廣五號十二 料一號一圓 休日曜大衆
 一年一圓八角 廣五號十二 料一號一圓 休日曜大衆

常盤文藝 短歌

ふたば

◇ひたぶるに君を思ひて詩を
かけば、書ける顔の君に
似て行く

◇日蝕をながめてふとも思
ひ出ぬ、君が悲しき心の
影を

◇まどかなる君の心をむし
ばめる、悲しき誤解は日
蝕に似る

◇まどき陽のふとしもかけ
て元のごと、なるすべな
らぬ君を悲しむ

◇波紋のごとひろがりて行
く鐘の音に、若き心は淋
しさのわく

◇物言ひば涙おつべし我性
の弱さが故に、此のなげ
きかな

◇底なしの潮のごと夜の庭
は、闇と光を織りなして
あり

◇新月は美しき君の肩に似
て、なまめき渡る七月の
宵

◇たらちねの深き心におろ
かなる、我のなかるゝ夜
の路かな

◇死ぬことをあだかも鳥の
巢にかへる、ごどに覺へ
し我しむ

◇夕暮の青き川邊に友と居
て、むねのいたみに心泣
かる

◇忘れたる夢のごとくに黒
雲の去りたる、後のよこ
もわびしや

◇水草のごとくさすらすら歌
人の、聲の淋しさ星流れ
散る

◇無花果にそよげる雨のし
づかにて、わびしく暮る
る山中の村

◇忘れ行く友の面影思べど
か赤く小さき日照草咲く
川べりに立ちてしみじみ
七月の、空の蒼さに君を
思ひり

◇思ふさま泣かむと入りし
納戸にて、涙出ぬ故はほ
へみて見ぬ

◇なにごともあきらむるは
女のみちど、おしへられ
嫁ぐ君と悲しからずや

貸家案内

仲間町 勤人向 一〇、〇〇
同 勤人向 八、〇〇
柳町 勤人向 六、五〇
同 勤人向 五、五〇
同 勤人向 五、五〇
同 勤人向 五、五〇
北白銀町 勤人向 七、〇〇
同 勤人向 七、〇〇
長橋 勤人向 五、五〇
五丁目 勤人向 四、五〇
小島 勤人向 四、五〇
小島 勤人向 四、五〇
夕涼みの御散策に早月を見
ながら昭和園へ御遊びに被
入して下さい

共保生命保険株式會社
警署代理店
神戸海上運送火災保険株式
會社 代理店
加藤營業所
白銀町電話三二二番

涼しい御召物の……

◇絹麻小紋の宣傳
優美高尚着心地よく
而かも染色堅牢と大好評

◇新館階上陳列
涼しい縞中形
軽い夏帯
豊富に取揃へてあります
是非御高覧の榮をお待ちし
て居ります

三井呉服店

平町三丁目
電話三十八番

外科一般

耳鼻咽喉科
女性病科
×光線科

赤心堂病院

田町 電話四七五番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五二三番

階上食堂

同伴席ノ
設備アリ

美味 評判 **イロキ食堂**
平町紺屋町(縣社通り)
オの部電話四六〇番

買イ好店 良價ヲ安ク賣ル

クイーンズリ

關内藥舖 藥劑師 關内 栄助
電話四〇番

原齒科醫院

平町土橋通り 電話三一三番

吉田眼科醫院

販賣員募集

南部 鐵瓶 日掛 御便宜ニ致シマス
ホーキン 爐力ギ 大中小...精巧優美
各種...ナ作デス
南町廿九番地

印半天專門

優秀品の証明
草野染工場
電話三四八番
磐城 平町

◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ
際シ有利ニ御相談申上候

大谷時計店

洋品商 平町三丁目(電話四一九番)

◇最新 **ラヂオ廉價販賣**
◇アンテナ及びアースは入りません
(高尚優美旅行用ともなる高聲にして雑音なし)

◇機械スパー六球ヘトロタイン充電機付
持參して御聞かせの上一時拂或ひは月賦等御相談致ます

磐城セメント

和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋 釜屋商店
警署平町五丁目 電話九番 一三九番

▽良品廉賣ニ勝る商畧なし△
▽確實敏捷は釜屋の生命なり△

賣れ行きが事實を證明する
品質聲價共に拔群の!!

磐城病院

平町田町本通り
入院隨時(電話二一四番)

内科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。

殺人鬼 治八郎が

血を見て狂ふ斧の跡

五人殺しの顛末

めいこの不義密通が兇行の因
豫審決定に現れた彼の暴状

豫審終結決定

本籍並に住居福島縣石城郡
内郷村大字白字廣畑九十
九番地農業

鈴木治八郎

明治十一年生

右の者に對する殺人被告事
件に付豫審を遂げ決定する
こと左の如し

主文

本件を福島地方裁判所平支
部の公判に附す

理由

被告人は福島縣石城郡内郷
村大字白字長槻内卅六番
地農大越治七の實弟にして
大正十五年十一月十日より治
七と同番地内の

本宅に

居住する同
人長男大越五平の妻ヒサと
情を通じ居つたるか昭和二
年二月中二回五平方に於て
同人の不在に乗じて情交を
求めて拒絶せられたるより
其無情を憤り尙若し五平が
此事を知る曉には難問題を
惹起すべきことを憂懼し居
つたる折柄同年三月二十三
日夜同村大字白字入山九
十八番地若松喜藤太方に於
て

飲酒し

午後八時過
ぎ頃同家を立出て歸宅の途

處斷す へき犯罪に
して其嫌疑十分なりと史料
するを以つて刑事訴訟法第
三百十二條に則り主文の如
く決定す

昭和二年七月二日

福島地方裁判所平支部
豫審判事 遠藤周藏
裁判所書記 鳥山辰雄

農村の青年二名が

共謀で列車泥を働く

然も常習犯
ウタ、寝の客を襲ふ

石城郡警崎村大字西郷字金
山農山野邊久四郎(三)同村
農伊藤正夫(七)の兩名は去
る五月六日午後九時十二分
湯本驛着列車より下車に際
し同車室にウタ、寝して居
た平町六間門佐々木クラ所
有のパスケット一個(在中
品、黒及び紺のチリメン女
羽織二枚、木綿縮反物一反
菓子一袋等價格百六十圓)
を窃取したる事平署に探知
され本日同署の森、根本兩
刑事に逮捕されたが同人等
は共謀して常に列車泥を働
き居たるものにて此外十六

坑内爆破し

大火傷を負ふ

石城郡川部村王城炭坑々内
で四日午前十一時頃瓦斯爆
發作業中の長崎縣佐洲村生
れ探炭夫中村宇吉は全身に
頻死の大火傷を負ひ生命危
篤

姫像虫駆除

益々はびこる

石城郡下各町村の夏秋蠶使
用桑園には介殼蟲及び姫像
蟲等が發生し郡同業組合に
て指導驅除中の處數日來か
ら更に郡下桑園一帯に亘り
細菌病が發生し初めたが同
病は一種のバクテリアにし
て稚蠶に頗る有害な爲め同
組合では根本的驅除撲滅の
必要に迫り成田技師は各町
村農會を督勵して驅除方法



家庭欄

古い蚊帳の洗濯

總じて蚊帳のやうなものは
新しい間は氣持が宜敷
いが古くなりなると何だか
暑苦しい感じがいたします

が、これを洗濯する方は少
いやうです、何しろ小さな
蚊帳でも洗濯するには取扱
ひにくひものですが、極簡
單に家庭で出来る方法があ
りますから一般に是非おす
めしたいのです、先づ最
初に赤い線布や環を脱がし
て下さいこれは蚊帳地の色
が染るからです比較的まし
いものは尙更此の用意が大
切です。次に洗濯ソーダを
湯に溶かしてその中へ蚊帳
をつけるのですがその前に
一度よくはたきをかけて埃
を拂つておかねばなりません。
洗濯ソーダ水の中へ稍
暫らくそのまゝ浸して置い
て丁寧に打ち振り、洗ふ
のです

竹馬に乗つて

富士山踏破の壯圖

平機關庫の花澤輝一君

来る廿九日に出發

富士山へ竹馬で登つたレ
ードは八合目迄であつて夫
れ以上を踏破した者は未だ
曾つて一名もない、今度平
機關庫の

血氣に 燃ゆる若人

達は中澤光彌君を隊長に押
し立て、第二回の富士登山
を決定する爲め来る廿九日
午後一時廿一分平驛發で門
出する筈であるが一行中の
花澤輝一君は竹馬に依つて
頂上の雪を踏み散らし従來

選手と

明治神宮の競技にも出場し
たスポーツマンであるから
充分な確信と意込みを以つ
て此壯圖を抱くに至つた事
であるから其の結果如何は
大いに刮目に價すべきであ
らう

八日會の講演 平町

道路に關した

即決處分が 多くを占む

田町青年八日會第二回講演
會は八日午後七時より藤田
女學校にて開會千葉平區監
督判事の「所感」大和田佑賢
學舎長の「今や青年奮起の
時は來れり」と題する講演
ある由にて一般の傍聴を歡
迎する

水道敷設

近く着手か

石城郡湯本町入山炭礦會社
は同郡好間江筋から取水し
て水道を敷設すべく數年間
運動を續けてゐるが今回本
縣土木課長の命によつて關
係者好間金成村長外三名が
五日午前五時四十五分平驛
發列車にて出縣したから着

平町物價

品名	單位	價格
白米	二升	四二〇
白米	一升	四一〇
白米	三升	四〇〇
白米	四升	三九〇
白米	五升	三八〇
白米	六升	三七〇
白米	七升	三六〇
白米	八升	三五〇
白米	九升	三四〇
白米	十升	三三〇
白米	十一升	三二〇
白米	十二升	三一〇
白米	十三升	三〇〇
白米	十四升	二九〇
白米	十五升	二八〇
白米	十六升	二七〇
白米	十七升	二六〇
白米	十八升	二五〇
白米	十九升	二四〇
白米	二十升	二三〇
白米	二十一升	二二〇
白米	二十二升	二一〇
白米	二十三升	二〇〇
白米	二十四升	一九〇
白米	二十五升	一八〇
白米	二十六升	一七〇
白米	二十七升	一六〇
白米	二十八升	一五〇
白米	二十九升	一四〇
白米	三十升	一三〇
白米	三十一升	一二〇
白米	三十二升	一一〇
白米	三十三升	一〇〇
白米	三十四升	九〇
白米	三十五升	八〇
白米	三十六升	七〇
白米	三十七升	六〇
白米	三十八升	五〇
白米	三十九升	四〇
白米	四十升	三〇
白米	四十一升	二〇
白米	四十二升	一〇
白米	四十三升	〇
白米	四十四升	〇
白米	四十五升	〇
白米	四十六升	〇
白米	四十七升	〇
白米	四十八升	〇
白米	四十九升	〇
白米	五十升	〇